

2018年明治杯全日本選抜選手権

# 階級別展望

※直前のけが等は勘案しておりません

日本協会ホームページ <http://www.japan-wrestling.jp/>

選手データベース <http://db.japan-wrestling.jp/>

(公財) 日本レスリング協会 広報委員会

## ◎男子グレコローマン

### 【55kg 級】(6月16日実施)

《2017年全日本選手権優勝》  
田野倉翔太(東京・自由ヶ丘学園高教)  
《2017年全日本選手権2位》  
小川翔太(日体大)  
《2017年全日本選手権3位》  
丸山智也(山梨学院大)  
《2017年全日本選手権3位》  
片桐大夢(拓大)  
稲葉海人(日体大)  
比嘉優太(神奈川大)  
難波 陽(青山学院大職)  
山口秀斗(神奈川大)  
井上征洋(兵庫県協会)  
神田優人(中京学院大)

### 【60kg 級】(6月17日実施)

《2017年全日本選手権優勝》  
太田 忍(ALSOK)  
《2017年全日本選手権2位》  
文田健一郎(ミキハウス)  
《2017年全日本選手権3位》  
河口 清(九州共立大)  
《2017年全日本選手権3位》  
清水早伸(自衛隊)  
河名真寿斗(クリナップ)  
桑山裕貴(専大)  
鈴木絢大(日体大)  
高橋三四郎(山梨学院大)  
藤波諒太郎(専大)  
矢部和希(日体大)

復帰して全日本選手権を制した**田野倉翔太(東京・自由ヶ丘学園高教)**の優位は動くまい。3月のアジア選手権(キルギス)で優勝し、3月のダン・コロフニコラ・ペトロフ国際大会(ブルガリア)でも2位。国際舞台で通じる実力を見せている。

全日本選手権2位の**小川翔太(日体大)**は4月のJOC杯ジュニアを制し、若手の期待度ナンバーワンの選手の成長。同3位の**丸山智也(山梨学院大)**と**片桐大夢(拓大)**が意地を見せるか。

**難波陽(青山学院大職)**は2016年に世界ジュニア選手権55kg級で2位になっている。シニアの59kg級ではきつかったようだが、55kg級が復活して力を発揮することができるか。

59kg級で2016年リオデジャネイロ・オリンピック銀メダルの**太田忍(ALSOK)**と昨年の世界チャンピオンの**文田健一郎(ミキハウス)**が今回も優勝を争うと思われたが、文田がひざの負傷で不参加を表明。全日本選手権決勝の再現は実現しないことになった。

太田はこの冬、2月のアジア選手権(キルギス)で優勝、3月のダン・コロフニコラ・ペトロフ国際大会(ブルガリア)63kg級3位と国際大会で結果を残している。成果を発揮することができるか。

対抗の一番手は、全日本選手権は負傷で棄権したが、昨年のU-23世界選手権59kg級優勝の**河名真寿斗(クリナップ)**となるだろう。全日本選手権3位の**清水早伸(自衛隊)**と**河口清(九州共立大)**、4月のJOC杯ジュニア優勝の**鈴木絢大(日体大)**らが優勝戦線に浮上できるか。

## 【63kg 級】(6月14日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

井ノ口崇之(自衛隊)

《2017年全日本選手権2位》

松井 涼(バイテックホールディングス)

《2017年全日本選手権3位》

影山大洋(滋賀レイクスターズ)

《2017年全日本選手権3位》

大山允長(青山学院大)

石川将樹(拓大)

遠藤功章(日体大)

北岡佑介(自衛隊)

小柴亮太(日体大)

平尾清晴(神奈川・西有馬小教)

山田義起(日体大)

## 【67kg 級】(6月16日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

下山田培(警視庁)

《2017年全日本選手権2位》

川瀬克祥(シリウスEHC)

《2017年全日本選手権3位》

高橋昭五(警視庁)

《2017年全日本選手権3位》

小林大樹(日体大)

宇井大和(早大)

上垣勇二(自衛隊)

勝野亮希(神奈川大)

田口学容(中京学院大)

中橋 涼(日体大)

中村拓磨(専大)

堀江耐志(徳山大)

全日本選手権は井ノ口崇之(自衛隊)が制したが、松井涼(バイテックホールディングス)との決勝は大接戦の末の勝利。再戦となった時の勝敗の行方は分からない。井ノ口は2月にアジア選手権(キルギス=5位)に出場し、3月には欧州遠征で鍛えた。成果を発揮できるか。

井ノ口に敗れたが、昨年の学生二冠王者(全日本学生選手権、全日本大学グレコローマン選手権)の北岡佑介(自衛隊)を含めて、3選手のどれが勝ってもおかしくない。

昨年の全日本社会人選手権 59kg 級優勝の平尾清晴(神奈川・西有馬小教)がベテランの味を発揮して優勝争いにかからむか。

全日本選手権を制し、3月のアジア選手権(キルギス)2位の下山田培(警視庁)が抜け出すか。新ルールを先取りして行われた昨年11月のデーブ・シュルツ国際大会(米国)でも優勝しており、現行ルールではより強さを発揮しそう。

全日本選手権2位の川瀬克祥(シリウスEHC)の欧州での練習とダン・コロフニコラ・ペトロフ国際大会(ブルガリア)出場で鍛えた。成果を発揮できるか。昨年の世界選手権66kg級代表で全日本選手権3位の高橋昭五(警視庁)を含め、3選手に大きな実力差は感じられず、優勝争いは熾烈となりそう。

昨年のアジア・インドア&マーシャルアーツ大会66kg級3位の宇井大和(早大)、全日本選手権3位の小林大樹(日体大)の優勝戦線浮上はあるか。

## 【72kg 級】(6月15日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

井上智裕 (富士工業)

《2017年全日本選手権2位》

花山和寛 (自衛隊)

《2017年全日本選手権3位》

澤田夢有人 (日体大)

《2017年全日本選手権3位》

山本貴裕 (日体大大学院)

近藤雅貴 (警視庁)

森 俊樹 (森エンタープライズ)

前田明都 (専大)

島袋慶生 (日体大)

齋藤隼佑 (早大)

北條良真 (神奈川大)

大賀 遥 (神奈川大)

小路直頌 (自衛隊)

全日本選手権を制したのは、2016年リオデジャネイロ・オリンピック 66kg 級5位の井上智裕 (富士工業)。3月のアジア選手権 (キルギス) で3位に入り、ダン・コロフニコラ・ペトロフ国際大会 (ブルガリア) で5位入賞など、この階級でも国際舞台で通じる実力を発揮している。実績のある選手だが、意外にも世界選手権には出場したことがない。

全日本選手権2位で71kg級の世界選手権出場の経験のある花山和寛 (自衛隊) がどう挑むか。

全日本選手権3位の澤田夢有人 (日体大)、同じく3位で昨年の学生二冠王 (全日本学生選手権、全日本大学グレコローマン選手権) の山本貴裕 (日体大大学院)、2017年JOC杯74kg級優勝の大賀遥 (神奈川大) らが優勝争いに加われるか。

## 【77kg 級】(6月16日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

屋比久翔平 (ALSOK)

《2017年全日本選手権2位》

泉武志 (一宮グループ)

《2017年全日本選手権3位》

亀井竜昇 (NTCコンサルティング)

《2017年全日本選手権3位》

葛谷拳龍 (神奈川大)

奥田海人 (明大)

北川幸一 (松阪クラブ)

阪部 創 (自衛隊)

櫻庭功大 (拓大)

田代英才 (国士舘大)

林 雷 (日体大)

藤原 稜 (愛媛県協会)

山崎翔馬 (九州共立大)

昨年の世界選手権 (フランス) 75kg 級代表で全日本選手権を3連覇中の屋比久翔平 (ALSOK) と、昨年の世界選手権71kg級代表で全日本選手権2位の泉武志 (一宮グループ) との闘いが再現されるか。屋比久は2月のアジア選手権 (キルギス) に出場したあと、欧州遠征に参加。泉も欧州遠征で鍛えた。

昨年75kg級2位の阪部創 (自衛隊)、75kg級学生二冠王 (全日本学生選手権、全日本大学グレコローマン選手権) の林雷 (日体大) が優勝争いに浮上できるか。林は4月のJOC杯ジュニアでも圧勝優勝。ジュニア世代では実力の違いを見せつけている。

全日本選手権3位の亀井竜昇 (NTCコンサルティング) と葛谷拳龍 (神奈川大) が意地を見せられるか。

## 【82kg 級】(6月15日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

前田祐也(鳥取・鳥取中央育英高職)

《2017年全日本選手権2位》

岡嶋勇也(警視庁)

《2017年全日本選手権3位》

勅使川原延明(日体大)

《2017年全日本選手権3位》

藤井達哉(青山学院大)

川村洋史(自衛隊)

北村公平(京都クラブ)

小林拓真(日大)

佐々木雄大(明大)

田中真男(日体大)

鶴田峻大(自衛隊)

野崎竜陽(中京学院大)

松崎勇人(日体大)

2015年から80・82kg級で全日本の2大会を連覇している前田祐也(鳥取・鳥取中央育英高職)が今回も実力を発揮するか。全日本選手権2位で拓大時代の同期生の岡嶋勇也(警視庁)がリベンジして栄冠を勝ち取るか。

2016年全日本選手権80kg級2位の鶴田峻大(自衛隊)は、同年の全国社会人オープン選手権で前田を破って優勝している。負傷で昨年の全日本選手権は不出場だったが、復調していれば打倒前田の一番手と考えていい選手。

全日本選手権3位で全日本大学グレコローマン80kg級王者の勅使川原延明(日体大)と同じ全日本3位で全日本学生選手権80kg級優勝の藤井達哉(青山学院大)の学生勢や、昨年の全日本社会人選手権85kg級優勝の川村洋史(自衛隊)や同80kg級2位の北村公平(京都クラブ)ら社会人選手の上位進出はあるか。

## 【87kg 級】(6月14日実施)

2017年全日本選手権優勝》

角 雅人(自衛隊)

《2017年全日本選手権2位》

岡 太一(自衛隊)

《2017年全日本選手権3位》

塩川貫太(クリナップ)

岩田直之(大東大)

隈部吉伸(九州共立大)

島田 樹(帝塚山大)

堤 卓哉(中大)

豊村裕豊(徳山大)

永井基生(明大)

奈須川良太(神奈川大)

西山慎吾(日体大)

全日本選手権優勝の角雅人(自衛隊)と同2位の岡太一(自衛隊)の同門対決が再現されるか。角は新ルールテスト大会となった昨年11月のデーブ・シュルツ国際大会(米国)で優勝し、3月のアジア選手権(キルギス)で銀メダル獲得。同月のダン・コロフニコラ・ペトロフ国際大会(ブルガリア)でも欧州3選手を破って5位入賞と国際舞台で通じる実力を披露。その勢いを持ち込みたいところ。

昨年初めに復帰した岡は、昨年の国民体育大会と全日本選手権で2位。ある程度の実力は取り戻している。負けたのは、ともに角。その壁をどう打ち破るか。

昨年の98・85kg級学生二冠王(全日本学生選手権、全日本大学グレコローマン選手権)の塩川貫太(クリナップ)が両者の争いに割って入れるか。

## 【97kg 級】(6月15日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

奈良勇太 (警視庁警察学校)

《2017年全日本選手権2位》

志喜屋正明 (自衛隊)

《2017年全日本選手権3位》

天野雅之 (中大職)

有菌拓真 (ALSOK)

白鳥慶樹 (日体大)

仲里優力 (日体大)

中村隆太 (東洋大)

饒波正真 (九州共立大)

前川勝利 (HRC)

松本直毅 (早大)

山下拓也 (拓大)

昨年の世界選手権 98kg 級代表で 2 年連続で全日本 2 大会 (全日本選手権、全日本選抜選手権) を制している **奈良勇太(警視庁警察学校)** が強さを発揮するか。昨年のアジア・インドア&マーシャルアーツ大会 (トルクメニスタン) では銅メダルを獲得したが、11 月の U-23 世界選手権 (ポーランド) と今年 2 月のアジア選手権 (キルギス) では不振だっただけに、国内でしっかり勝って確固たる基礎をつくりたい。

全日本選手権 2 位でコンスタントに上位に進出している **志喜屋正明 (自衛隊)** は、このあたりで壁を破って優勝を勝ち取りたいところ。

全日本選手権 3 位の **天野雅之 (中大職)** がベテランの味を発揮して優勝争いに加わるか。若手では、昨年の高校 5 冠王者 (全国高校選抜大会、JOC 杯カデット、インターハイ、全国高校生グレコローマン選手権、国民体育大会) の **仲里優力(日体大)** がどんな闘いをするか。

## 【130kg 級】(6月14日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

園田 新 (ALSOK)

《2017年全日本選手権2位》

谷田昇大 (和歌山県教育庁)

伊藤匠汰 (青山学院大)

貝塚賢史 (茨城県競技力向上対策本部)

河野隆太 (あづまフーズ)

津田大健 (宇和島市役所)

番地啓太 (国士舘大)

樋口卓弥 (ワールド・プランニング)

日坂侃生 (山口産業)

2014 年から 4 年連続で全日本 2 大会 (全日本選抜選手権、全日本選手権) を勝ち続けている第一人者、**園田新 (ALSOK)** がどんな強さを見せるか。昨年 の U-23 世界選手権 (ポーランド) ではアゼルバイジャンの選手を破って 5 位に入賞と、世界で通じる実力は確実についている。さらに飛躍するため、国内ではすっきり勝ちたいところ。

全日本選手権 2 位の **谷田昇大 (和歌山県教育庁)**、昨年 の全日本学生選手権優勝の **貝塚賢史 (茨城県競技力向上対策本部)**、国体優勝の **津田大健 (宇和島市役所)** らが、その牙城を脅かすことができるか。

## ◎男子フリースタイル

### 【57kg 級】(6月17日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

高橋侑希 (ALSOK)

《2017年全日本選手権2位》

長谷川敏裕 (日体大)

《2017年全日本選手権3位》

守田泰弘 (徳山大職)

《2017年全日本選手権3位》

山口海輝 (日体大)

阿部敏弥 (国士舘大)

新井陸人 (日体大)

荒木大貴 (専大)

有延大輝 (築上クラブ)

岡田幹大 (日体大)

川野陽介 (自衛隊)

田代拓海 (福岡大)

服部大虎 (山梨学院大)

早山竜太郎 (拓大)

松井 稜 (山梨学院大)

山北溪人 (専大)

### 【61kg 級】(6月14日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

小柳和也 (自衛隊)

《2017年全日本選手権2位》

有元伸悟 (近大職)

《2017年全日本選手権3位》

藤田雄大 (青山学院大)

《2017年全日本選手権3位》

船木拓也 (自衛隊)

小川航大 (日体大)

菊地 憲 (ALSOK 秋田)

佐々木虎次郎 (専大)

永田丈治 (国士舘大)

中田 陽 (三重・朝明高教)

東本拓真 (近大)

前田頼夢 (福井県協会)

吉澤拳斗 (専大)

昨年の世界チャンピオンで全日本選手権も制した高橋侑希 (ALSOK) が実力を発揮するか。4月のワールドカップ (米国) では世界選手権決勝で勝った米国選手を返り討ちにするなど4戦全勝。実力をキープしている。

全日本選手権2位の長谷川敏裕 (日体大)、同3位の山口海輝 (日体大) の日体大勢がどこまで食いつくか。長谷川は3月のアジア選手権 (キルギス) で銅メダルを獲得し、国際舞台で通じる実力を養成。山口は1年生ながら東日本学生リーグ戦で活躍するなど実力は十分。

2015年全日本戦主権で高橋を破った川野陽介 (自衛隊) が優勝争いにからむことができるか。山口以外の若手では、JOC杯優勝の荒木大貴 (専大)、昨年のインターハイ 55kg 級優勝の服部大虎 (山梨学院大) らの躍進はあるか。

全日本選手権優勝の小柳和也 (自衛隊) が3月のアジア選手権 (キルギス) 2位を経て、4月のワールドカップ (米国) で世界3位のキューバ選手を破るなど好調。勢いを持ち込めるか。全日本選手権決勝で敗れた有元伸悟 (近大職) のリベンジなるか。3月のダン・コロフニコラ・ペトロフ国際大会 (ブルガリア) 2位と実力は十分。

同3位の藤田雄大 (青山学院大) と船木拓也 (自衛隊)、昨年の全国社会人オープン選手権 65kg 級優勝で階級を下げて挑む中田陽 (三重・朝明高教) らが上位へ食いつめるか。

若手では4月のJOC杯ジュニア優勝の小川航大 (日体大) に上位進出が期待される。

## 【65kg 級】(6月17日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

高谷大地 (自衛隊)

《2017年全日本選手権2位》

米澤 圭 (早大)

《2017年全日本選手権3位》

金城希龍 (自衛隊)

《2017年全日本選手権3位》

嶋江翔也 (日体大)

阿部宏隆 (サコス)

安楽龍馬 (早大)

上野裕次郎 (日体大)

乙黒拓斗 (山梨学院大)

鴨居正和 (自衛隊)

榊 大夢 (山梨学院大)

清水洗希 (拓大)

寺田光輝 (福岡大助手)

中村剛士 (専大)

中村倫也 (博報堂DYスポーツ)

樋口 黎 (日体大助手)

## 【70kg 級】(6月14日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

乙黒圭祐 (山梨学院大)

《2017年全日本選手権2位》

木下貴輪 (クリナップ)

伊藤朱里 (中大)

伊藤 駿 (早大)

坂野秀堯 (日大)

志賀晃次郎 (拓大)

高橋翔平 (自衛隊)

玉岡拓海 (福岡大)

中村優太 (専大)

松田健悟 (青山学院大職)

基山仁太郎 (日体大)

米澤 凌 (早大)

ハイレベルの激戦階級。全日本王者の**高谷大地 (自衛隊)** は3月のアジア選手権 (キルギス) 2位で、4月のワールドカップ (米国) では世界3位の選手を撃破。もう一人のワールドカップ代表の**乙黒拓斗 (山梨学院大)** は1階級下の2016年世界王者を破った。

2016年リオデジャネイロ・オリンピック 57kg 級銀メダルの**樋口黎 (日体大助手)** はこの階級2大会目となり、実力発揮が予想される。昨年のU-23世界選手権 (ポーランド) 61kg 級優勝の**中村倫也 (博報堂DYスポーツ)** もこの階級に照準を定めた。手ごわい存在になりそう。

昨年の世界選手権 (フランス) 代表の**鴨居正和 (自衛隊)** が盛り返すか。昨年の学生二冠王者 (全日本学生選手権、全日本大学選手権) で全日本選手権2位の**米澤圭 (早大)** が今回も優勝争いにかからむか。

階級を上げて一気に全日本王者に輝いた**乙黒圭祐 (山梨学院大)** と、全日本選手権決勝で不覚を喫した昨年の学生二冠王者の**木下貴輪 (クリナップ)** の優勝争いが再現されるか。乙黒は3月のアジア選手権 (キルギス) は不調だったが、4月のワールドカップ (米国) ではジョージア選手を破る実力を見せた。木下もワールドカップで昨年世界2位の米国選手に善戦。どちらが勝ってもおかしくない状況と言える。

昨年3位の**伊藤駿 (早大)** は壁を破りたいところ。昨年、66kg 級で世界ジュニア選手権出場を果たした**志賀晃次郎 (拓大)** の上位進出はあるか。

4月のJOC杯優勝の**基山仁太郎 (日体大)**、昨年のインターハイ 66kg 級王者の**米澤凌 (早大)**、同74kg 級王者の**伊藤朱里 (中大)**、昨年の国体少年74kg 級優勝の**坂野秀堯 (日大)** の大学1年生のホープがどこまで上位へ進めるか。



## 【74kg 級】(6月16日実施)

《2017年全日本選手権優勝》  
藤波勇飛(山梨学院大)  
《2017年全日本選手権2位》  
保坂 健(自衛隊)  
《2017年全日本選手権3位》  
奥井眞生(自衛隊)  
《2017年全日本選手権3位》  
中村百次郎(佐賀県協会)  
磯川利音(国士舘大)  
梅林太朗(早大)  
尾形 颯(中大)  
嶋江健太(福岡大)  
多胡島伸佳(KATSURA group)  
三輪優翔(日体大)  
横山凜太郎(山梨学院大)  
吉田隆起(拓大)

## 【79kg 級】(6月15日実施)

《2017年全日本選手権優勝》  
高谷惣亮(ALSOK)  
《2017年全日本選手権2位》  
浅井翼(茨城県競技力向上対策本部)  
《2017年全日本選手権3位》  
阿部侑太(日体大)  
《2017年全日本選手権3位》  
石黒隼士(日大)  
井筒勇人(拓大)  
加賀谷庸一朗(和歌山県教育庁)  
川畑孔明(東洋大)  
眞柴翔平(近大)  
山崎弥十朗(早大)

昨年の世界選手権70kg級で銅メダルを獲得し、74kg級に上げて全日本選手権を制した藤波勇飛(山梨学院大)の優勝候補筆頭は動くまい。国内の74kg級は3大会をこなしたが、すべてテクニカルフォールかフォール勝ち。4月のワールドカップ(米国)では世界7位のキューバ選手にテクニカルフォール勝ちするなど、この階級でも世界で通じる実力を披露した。

ただ、5月初めの練習で左目の下を陥没骨折。東日本学生リーグ戦には2試合に出場してともに勝ったが、社会人の強豪相手に通じるまでに回復しているかどうか。

全日本選手権2位の保坂健(自衛隊)、同3位の奥井眞生(自衛隊)と中村百次郎(佐賀県協会)、昨年70kg級2位で階級を上げた多胡島伸佳(KATSURA group)は、この機にその牙城を崩したいところ。

昨年の全日本大学選手権2位の吉田隆起(拓大)は、全日本選手権では藤波から4ポイントを獲得する健闘。最後はフォール負けしたが、最近、藤波に最も食いついた選手といえよう。全日本大学選手権70kg級2位で階級を上げた梅林太朗(早大)、今年の本JOC杯ジュニア優勝の三輪優翔(日体大)らの躍進はあるか。

74kg級でオリンピックに連続出場し、階級を上げて全日本選手権を制した高谷惣亮(ALSOK)が実力を発揮するか。4月のワールドカップ(米国)でも3勝1敗と一定の成果は出した。

全日本選手権決勝で挑んだ浅井翼(茨城県競技力向上対策本部)は3月のアジア選手権(キルギス)で国際大会初のメダル獲得と実力をつけた。高谷の牙城を崩せるか。全日本選手権で高校生ながら3位入賞を果たした石黒隼士(日大=当時埼玉・花咲徳栄高)は、4月のJOC杯ジュニアでも優勝と実力を見せた。勢いを持ち込んで上位進出なるか。

同じく全日本選手権3位の阿部侑太(日体大)、同5位の山崎弥十朗(早大)ら学生選手の上位進出はなるか。山崎は個人で参加した2月のウクライナ国際大会で5位入賞の実力を見せた。

## 【86kg 級】(6月15日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

白井勝太 (日大大学院)

《2017年全日本選手権2位》

松坂誠應 (自衛隊)

《2017年全日本選手権3位》

村山貴裕 (自衛隊)

《2017年全日本選手権3位》

松雪泰成 (専大)

牛水瑞貴 (山梨学院大)

緒方竜成 (日体大)

奈良部嘉明 (筑西広域消防本部)

八木海里 (中大)

山田修太郎 (山梨学院大)

全日本選手権を制した**白井勝太 (日大大学院)**と、同決勝で敗れた昨年の世界選手権代表の**松坂誠應 (自衛隊)**が再度優勝を争うか。白井は3月のアジア選手権 (キルギス) と4月のワールドカップ (米国) に出場、松坂は1月のイラン合宿と4月のワールドカップに参加し、ともに国際舞台で鍛えた。成果を結実させるのは、どちらか。

全日本選手権3位の**村山貴裕 (自衛隊)**と**松雪泰成 (専大)**がどう挑むか。

若手では、昨年の大会に高校生で出場して5位に入賞した**山田修太郎 (山梨学院大)**の闘いが期待される。4月のJOC杯ジュニアで優勝し、5月の東日本学生リーグ戦でも活躍した。台頭はあるか。

## 【92kg 級】(6月14日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

石黒峻士 (日大)

《2017年全日本選手権3位》

吉田ケイワン (日大)

大津拓馬 (山梨学院大)

執行優大 (福岡大)

内藤由良 (国士舘大)

福井裕士 (自衛隊)

松本篤史 (警視庁)

山根光司 (中大)

**石黒峻士 (日大)**が全日本選手権に続く優勝を目指す。この冬はアジア選手権 (キルギス) とワールドカップ (米国) に出場し、国際舞台で鍛えた。

そんな石黒に思いがけない強敵が現れた。2017年からグレコローマンへ転向し、昨年の世界選手権にも出場した**松本篤史 (警視庁)**が、グレコローマンのルール変更を機にフリースタイルにUターン。フリースタイルの世界選手権にも出場し、アジア選手権2位の実績を持つ実力者だけに、石黒も簡単には勝たせてもらえないだろう。

ベテランの**福井裕士 (自衛隊)**、全日本選手権で高校生ながら3位に食い込んだ**吉田ケイワン (日大)**が優勝争いにかかめるか。

## 【97kg 級】(6月16日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

山口 剛 (ブシロード)

《2017年全日本選手権2位》

園田 平 (自衛隊)

《2017年全日本選手権3位》

赤熊猶弥 (自衛隊)

《2017年全日本選手権3位》

二ノ宮寛斗 (明大)

秋場勇星 (国士舘大)

高野智也 (国士舘大)

恒石昌輝 (専大)

外山宏太 (東洋大)

藤田祐輔 (日亜化学工業)

安田 翔 (福井・嶺南東養護学教)

山本康稀 (日大クラブ)

吉川裕介 (自衛隊)

全日本選手権を制し、3月のアジア選手権(キルギス)で銅メダルを獲得した**山口剛 (ブシロード)**が勝ち抜くか。復帰して1年近くが経ち、国際舞台でも通じる力を取り戻した。

全日本選手権は決勝で山口に敗れて2位に終わったが、昨年10月の国民体育大会で山口を破っている**園田平 (自衛隊)**がどう挑むか。拓大を卒業してレスリングに専念できる環境に身を投じ、一段と力をつけていることが予想される。

全日本選手権は山口に敗れて3位に終わったが**赤熊猶弥 (自衛隊)**のリベンジなるか。昨年の世界選手権代表で、11月のクナエフ国際大会(ロシア)では銅メダルを獲得するなど実力はある。

全日本選手権は初戦敗退の不振だったが、昨年優勝で国民体育大会2位の**山本康稀 (日大クラブ)**、全日本選手権で山本を破って3位となった**二ノ宮寛斗 (明大)**らの上位進出はあるか。

## 【125kg 級】(6月15日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

荒木田進謙 (Wtrstle Academy)

《2017年全日本選手権2位》

山本泰輝 (拓大)

《2017年全日本選手権3位》

金澤勝利 (自衛隊)

《2017年全日本選手権3位》

田中哲矢 (自衛隊)

長野修平 (近大)

藤本 歩 (山梨学院大)

武藤翔吾 (中大)

村上佳児 (鮮ど市場)

森 右秀 (中京学院大)

山本泰丈 (日大)

昨年復帰し、この大会2位を経て全日本選手権を制した**荒木田進謙 (Wrestle Academy)**に、昨年の世界選手権代表(10位)で全日本選手権決勝で敗れた**山本泰輝 (拓大)**が挑む。

荒木田は3月のアジア選手権(キルギス)と4月のワールドカップ(米国)出場し、国際舞台で強化した。2015年に世界8位になっているが、その頃の実力を取り戻しているか。山本はワールドカップでキューバ選手相手にチームの銅メダル獲得につながった貴重な白星を上げるなど、世界で通じる実力をつけている。

全日本選手権3位の**金澤勝利 (自衛隊)**と**田中哲矢 (自衛隊)**が優勝争いにかからめるか。

## ◎女子

### 【50kg 級】(6月17日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

入江ゆき(自衛隊)

《2017年全日本選手権2位》

五十嵐未帆(至学館大)

《2017年全日本選手権3位》

須崎優衣(早大)

《2017年全日本選手権3位》

登坂絵莉(東新住建)

加賀田葵夏(青山学院大)

清水美海(京都・網野高)

田口あい(日体大)

田村生吹(京都・網野高)

中村未優(Sports Design Lab)

### 【53kg 級】(6月17日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

奥野春菜(至学館大)

《2017年全日本選手権2位》

宮原 優(博報堂DYスポーツ)

《2017年全日本選手権3位》

東川加奈(至学館大)

《2017年全日本選手権3位》

矢後佑華(警視庁)

《2017年全日本選手権55kg級3位》

角谷萌々果(アイシン・エイ・ダブリュ)

入江ななみ(福井県スポーツ協会)

堀 千咲(東洋大)

與那嶺優里(日本文理大)

全日本選手権を制した入江ゆき(自衛隊)、昨年の48kg級世界チャンピオンの須崎優衣(早大)、負傷で全日本選手権は途中棄権だった2016年リオデジャネイロ・オリンピック48kg級金メダルの登坂絵莉(東新住建)のハイレベルの争いが再現されるか。

入江は1月のヤリギン国際大会(ロシア)優勝、3月のアジア選手権(キルギス)3位に続き、ワールドカップ(高崎市)でリオデジャネイロ・オリンピック3位の選手を含めて3戦全勝。須崎は2月のクリッパン女子国際大会(スウェーデン)でリオデジャネイロ大会48kg級2位の選手を破って優勝、ともに結果を出して好調。登坂は負傷がどこまで回復しているか。

全日本選手権2位で昨年のU-23世界選手権53kg級優勝の五十嵐未帆(至学館大)、昨年の世界ジュニア選手権48kg級優勝の加賀田葵夏(青山学院大)、JOC杯ジュニア優勝の中村未優(Sports Design Lab)らの存在もあなどれない。

昨年の55kg級世界チャンピオンで、階級を下げて全日本選手権を制した奥野春菜(至学館大)に、全日本選手権2位の宮原優(博報堂DYスポーツ)が挑む。奥野はこの冬、ワールドカップ(高崎市)と国内のジュニア2大会で結果を出し、宮原もヤリギン国際大会(ロシア)優勝、アジア選手権(キルギス)3位など実力をアピールした。

昨年のアジア・インドア&マーシャルアーツ大会で優勝した矢後佑華(警視庁)、負傷から復帰し2月のクリッパン女子国際大会(スウェーデン)で優勝した入江ななみ(福井県スポーツ協会)、全日本選手権55kg級3位で階級を下げた角谷萌々果(アイシン・エイ・ダブリュ)らが優勝争いに加われるか。

## 【55kg 級】(6月14日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

向田真優 (至学館大)

《2017年全日本選手権2位》

五十嵐彩季 (至学館大)

《2017年全日本選手権3位》

田中亜里沙 (京都・京都八幡高教)

石森美月 (法大)

今井佑海 (京都・海洋高)

内城朝葉 (至学館大)

太田若那 (東京・安部学院高)

谷山菜緒 (法大)

永本聖奈 (愛知・至学館高)

樋口 耀 (日体大)

水口瑠子 (日体大)

昨年の世界選手権 53kg 級 2 位で、階級を上げて全日本選手権を制した**向田真優 (至学館大)** がリードしている状況。3 月のワールドカップ (高崎市) では 3 戦全勝と強さを見せた。55kg 級は 2016 年世界選手権 (ハンガリー) で優勝した階級。しっかり勝ってオリンピック階級へ移行したいところ。

全日本選手権 2 位の**五十嵐彩季 (至学館大)** が 3 月のアジア選手権 (キルギス) で優勝するなど急成長。ジュニアクイーンズカップ、JOC 杯ジュニアと優勝を重ね、勢いをつけて向田に再挑戦する。

昨年のインターハイ 52kg 級優勝の**今井佑海 (京都・海洋高)** は、2 月のクリッパン女子国際大会 (スウェーデン) 53kg 級 2 位と力をつけている。一気に浮上するか。

## 【57kg 級】(6月16日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

坂上嘉津季 (ALSOK)

《2017年全日本選手権2位》

浜田千穂 (キッコーマン)

《2017年全日本選手権3位》

南條早映 (至学館大)

《2017年全日本選手権3位》

花井瑛絵 (至学館大)

澤葉菜子 (至学館大)

望月芙早乃 (自衛隊)

昨年の世界選手権 (フランス) 58g 級代表で全日本選手権を制した**坂上嘉津季 (ALSOK)** が引き続き力を発揮するか。この冬はワールドカップ (高崎市) に出場し、国際経験を積んだ。元 55kg 級世界チャンピオンで全日本選手権 2 位の**浜田千穂 (キッコーマン)** がリベンジしての優勝を狙う。

昨年、世界ジュニア選手権 (フィンランド) 55kg 級とシニアのアジア選手権 55kg 級優勝の**南條早映 (至学館大)** は、全日本選手権 3 位のあと、2 月のクリッパン女子国際大会 (スウェーデン) でも優勝し、力を見せている。同じく全日本選手権 3 位で、クリッパン女子国際大会 59kg 級 2 位の**花井瑛絵 (至学館大)** とともに、世代交代を実現する可能性も十分。

## 【59kg 級】(6月17日実施)

《2017年全日本選手権2位》

熊野ゆづる(日大)

《2017年全日本選手権3位》

坂野結衣(警視庁)

《2017年全日本選手権62kg級優勝》

川井梨紗子(ジャパンビバレッジ)

岩澤希羽(至学館大)

小林奏音(早大)

田南部夢叶(日体大)

全日本チャンピオンの川井友香子は階級をアップ。代わって62kg級で全日本選手権を制した姉・川井梨紗子(ジャパンビバレッジ)がエントリーした。60kgを切る階級での闘いは2016年12月の全日本選手権58kg級以来となるが、階級は違っても優勝候補の筆頭と言えよう。

全日本選手権2位で、昨年の世界ジュニア選手権(フィンランド)とU-23世界選手権(ポーランド)の59・58kg級でW優勝の熊野ゆづる(日大)がどう闘うか。4月のジュニアクイーンズカップは優勝を逃してしまっただけに、巻き返しとなる闘いが望まれる。U-23世界選手権60kg級優勝で全日本選手権3位の坂野結衣(警視庁)が意地を見せられるか。

## 【62kg 級】(6月16日実施)

《2017年全日本選手権2位》

伊藤友莉香(自衛隊)

《2017年全日本選手権3位》

今川朋乃伽(日体大)

《2017年全日本選手権3位》

矢後愛佳(日大)

《2017年全日本選手権59kg級優勝》

川井友香子(至学館大)

河内美樹(日体大)

小玉彩天奈(早大)

三輪奏歩(東洋大)

類家直美(愛知・至学館高)

59kg級チャンピオンの川井友香子(至学館大)がこの階級にエントリーした。昨年の世界選手権(フランス)63kg級に出場して8位入賞、12月のワールドカップ(ロシア)60kg級と今年3月のワールドカップ(高崎市)59kg級とともに全勝と安定感は十分。

全日本選手権2位の伊藤友莉香(自衛隊)は、同決勝で敗れた姉・梨紗子に代わって妹に挑むことになる。昨年の世界選手権63kg級の代表決定プレーオフでの両者の対戦は川井が勝っている。伊藤にとっては、妹が相手でもリベンジ戦となる。3月のアジア選手権(キルギス)とワールドカップという国際舞台で鍛えた成果を出せるか。

全日本選手権3位の今川朋乃伽(日体大)、昨年1月のデーブ・シュルツ記念国際大会(米国)58kg級優勝の河内美樹(日体大)、4月のジュニアクイーンズカップ優勝の小玉彩天奈(早大)らが優勝争いからめるか。

## 【65kg 級】 (6 月 15 日実施)

《2017 年全日本選手権優勝》

源平彩南 (至学館大)

《2017 年全日本選手権 3 位》

今井海優 (自衛隊)

《2017 年全日本選手権 3 位》

榎本美鈴 (環太平洋大)

《2017 年全日本選手権 59kg 級 3 位》

河内沙樹 (日体大)

伊藤彩香 (東新住建)

栄 希和 (ジェイテクト)

鈴木芽衣 (東洋大)

## 【68kg 級】 (6 月 16 日実施)

《2017 年全日本選手権 2 位》

早川まい (至学館大)

《2017 年全日本選手権 3 位》

関 千晶 (警視庁)

《2017 年全日本選手権 3 位》

福島宇美 (明大)

《2017 年全日本選手権 65kg 級 2 位》

森川美和 (日体大)

渡利璃穂 (アイシン・エイ・ダブリュ)

全日本選手権を制した源平彩南 (至学館大) は、土性沙羅の負傷辞退で行われたアジア大会 (インドネシア) 68kg 級の代表決定試合で勝利し、1 階級上でも通じる実力を見せた。国際舞台でも、昨年 11 月の U-23 世界選手権 (ポーランド) 63kg 級優勝に続き、今年 3 月のワールドカップ (高崎市) でも全勝と実力を見せている。

全日本選手権 3 位の今井海優 (自衛隊) は 3 月のアジア選手権 (キルギス) 2 位と急成長。4 月のジュニアクイーンズカップと JOC 杯ジュニアで連続優勝して乗っている。源平を追い越せるか。

昨年の世界選手権 63kg 級代表に決まりながら、負傷で辞退した伊藤彩香 (東新住建) が復帰参戦。どこまで力を取り戻しているか。2015・16 年大会の 60・63kg 級を制し 1 月のヤリギン国際大会 (ロシア) 62kg 級 2 位の栄希和 (ジェイテクト) とともに、上位進出なるか。

全日本チャンピオンの土性沙羅は負傷で棄権。空いた座を、全日本選手権 2 位の早川まい (至学館大)、同 3 位で 2015 年世界選手権 75kg 級代表の関千晶 (警視庁=旧姓飯島)、全日本選手権 65kg 級 2 位の森川美和 (日体大) らの争いになると思われたが、2016 年リオデジャネイロ・オリンピック 75kg 級代表の渡利璃穂 (アイシン・エイ・ダブリュ) が、悪性リンパ腫による闘病生活を乗り越えて約 1 年 10 ヶ月ぶりに復帰。闘いに加わることになった。

早川はこの冬、ヤリギン国際大会 (ロシア) とアジア選手権 (キルギス) に出場し、国際舞台で強化。関は負傷で早川に不戦敗し 3 位となったもの。元世界選手権代表としての実力を今大会で発揮できるか。階級を上げた森川は 3 月のワールドカップ (高崎市) 68kg 級に抜てきされたほか、4 月のジュニアクイーンズカップと JOC 杯とともに早川を破って優勝。この階級で通用する実力を見せている。

渡利はオリンピックのあと大会に出場しておらず、現段階での実力は未知数。実力と試合勘をどこまで戻しているか。

この階級は全日本チャンピオンがエントリー前に不出場を明らかにしたため、優勝者がプレーオフなしで日本代表に内定する。

## 【72kg 級】(6月14日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

松雪成葉 (至学館大)

《2017年全日本選手権2位》

古市雅子 (日大)

《2017年全日本選手権3位》

進藤芽伊 (日体大)

昨年12月の全日本選手権で、下馬評を覆して初優勝を飾った**松雪成葉 (至学館大)**と、同2位の**古市雅子 (日大)**の優勝争いが再現されるか。

松雪は2月にクリッパン女子国際大会 (スウェーデン) に出場したあと、3月にワールドカップ (高崎市) へ出場、古市は1月にヤリギン国際大会 (ロシア)、3月にアジア選手権 (キルギス) に出場し、その後のワールドカップにも出場した。国際舞台での実力養成の成果を实らせるのは、どちらか。

全日本選手権3位の**進藤芽伊 (日体大)**が優勝争いにかからめるか。

## 【76kg 級】(6月15日実施)

《2017年全日本選手権優勝》

皆川博恵 (クリナップ)

《2017年全日本選手権2位》

松雪泰葉 (至学館大)

《2017年全日本選手権3位》

阿部梨乃 (自衛隊)

《2017年全日本選手権3位》

齋藤未来 (日本文理大)

小松佑寧 (法大)

土橋奏珠 (至学館大)

昨年の世界選手権 (フランス) 75kg 級で初めて世界のメダルを手にした**皆川博恵 (クリナップ)**が、強さを発揮して全日本選手権も制した。首一つ抜けている状況か。3月のアジア選手権 (キルギス) で2位と力を見せたが、その後のワールドカップ (高崎市) では振るわなかった。すっきり勝ち抜き、昨年に続く世界のメダルを目指したいところ。

昨年の U-23 世界選手権 (ポーランド) 75kg 級優勝で、全日本選手権2位の**松雪泰葉 (至学館大)**がどう挑むか。全日本選手権決勝では皆川に 0-2 の黒星。大きな実力差はない。4月のジュニアクイーンズカップと JOC 杯で連続優勝した勢いを持ち込めるか。

同3位の**阿部梨乃 (自衛隊)**と**齋藤未来 (日本文理大)**が優勝争いに浮上できるか。